

【学年・教科・単元名】

年中児 カプラ(積み木)を高く積み上げよう!~悔しい気持ちの経験を大切に~

【経緯】

今年の年中児は、自由な発想力でいろいろなものを生み出すことが大好きな子供たちなので、いろいろな組み合わせで自由に形を作り上げることができるカプラを取り入れ、日々の保育の中で遊んでいます。今までは、それぞれが好きな形を作って遊ぶ姿が多かった子供たちですが、最近は友達と一緒にいろいろな形を作ったり、高く積み上げたりするなど協同的に遊ぶ姿が増えてきました。



【取組の実際】

①どっちが高く積めるかな？

数人の子供たちが一緒にカプラを積み上げて遊んでいました。だんだんと高く積みあがるにつれて、周りの子供たちも「すごーい!」と様子を見守ったり、「一緒にやってもいい?」と輪に入ってきたりしていました。さらに「椅子がないと届かないね」と言い、椅子を持ってきてさらに積み上げ、「絶対負けないからね」と言いながら、どっちが高く積みあがるかを競っている姿が見られました。

②壊れたカプラ

しばらくすると、椅子では届かない高さになり、「先生、この椅子じゃ届かんけん、もっと高い椅子が欲しい」と言い、ピアノの椅子を貸すと、さらに高く積み上げていました。周りで見ていた子供たちも「すごーい!がんばって!」と応援する姿も見られました。しかし、カプラを積み上げていたA児がバランスを少し崩して足が当たってしまい、大きな音と共に高く積み上げたカプラが壊れてしまいました。悔しい気持ちと悲しい気持ちでA児は大粒の涙を流し、大きな泣き声が教室に響き渡りました。周りで見て応援していた子供たちもすぐにA児にかけより、「大丈夫?」「もっかい作ったらいいんよ」と声をかけるとすぐに崩れたカプラを直そうと手伝ってあげていました。教師もA児を慰めながら、一緒にカプラを積み上げるのを手伝いました。友達が手伝ってくれる様子を見たA児は泣きながらもカプラを手に取り、積み上げていました。



③今日はもっと高くしてみよう!

次の日、A児は「今度はこの前よりもっと高くしよう」と言いながら、友達と一緒にカプラを高く積み上げることを楽しむ姿が見られました。

【取り組み後の子供たちの姿】

上手いかなくても諦めるのではなく、悔しい気持ちをばねにしながら、友達に支えられながらも乗り越えていく姿が見られました。また、周りの子供達もA児の気持ちに寄り添ったり、手伝ったりするなどA児のことを考えて行動する姿が見られました。